分水北小学校
学校だより
あおぞら
令和６年度
第　５　号
令和６年８月２８日

自由とは

校長　荻野　秀和

１学期終業式に話した内容です。旧１万円札の肖像にもなった福澤諭吉は誰もが認める偉人です。大阪の下級武士の子どもとして生まれ、日頃から勉強熱心でオランダ語も堪能でした。当時は開国したての日本でしたが、家には鎖国時代から日本と交易をしていたオランダ語の本がたくさんあり、オランダ言葉を勉強しました。

ある時、諭吉は横浜に行く機会を得ました。すでに開国し多くの外国人が町を歩いていました。諭吉は早速、得意のオランダ語で話しかけました。しかし、オランダ語は通じず、ほとんどの外国人は英語を話していました。このことにショックを受けた諭吉ですが、めげずに今度は英語の勉強を始めました。英語の勉強をしてみると日本にはない考え方がたくさん英語にはあることに気づきました。そこで日本にはない考え方の英語は自分で日本語を作りました。例えば Speach（スピーチ）は「演説」のようにです。

そのような言葉の一つに Liberty（リバティー）があります。諭吉はこれを「自由」と訳しました。「自由」というと「好き勝手」と捉える児童が大半です。しかし、諭吉は「自らに由がある」という意味を込めて「自由」という言葉を作りました。「自らに由がある」を分かりやすくすると「自分に理由がある」「自分に責任がある」となります。決して好き勝手をするのではなく、自分の考えで行動し何かあれば自分で責任をとるということです。児童の行動に置き換えると、自分で思うがままに砂場で遊び、遊び終わったら使った道具は自分で片付けるということになります。この夏休み、子どもたちは本当の意味での「自由」を楽しんだでしょうか。2 学期の活動でもこの話を忘れずに活動してほしいと思います。